

『子どもたちによき伝承を』

人が大人になり、自立し、さらには、社会に貢献して世のため人のために生きるということとは、とても高尚なことであり尊いことであります。それを実現されている方々は、大いに御自身に誇りを持ってよろしいかと思えます。

少なくとも「人に迷惑をかけないで生きる」ということは、人として当然のことであり、生きていくうえで基本中の基本であると考えております。

昔の人たちは、自分の子へ「人様から後ろ指さされるようなことはするな」「お前のせいで誰かが不幸になったとしたら、そのことを恥じよ」などと、人を踏み台にするような生き方は何よりも恥ずかしいことであると諭しています。

もちろん、今でも自分の子や孫へ同様のことをしっかりと伝えている方々も多いと思いますが、近年、人に迷惑をかけることが恥であるという概念が随分と崩れてきているのではないかと思うことが数多くあるのです。

「オレオレ詐欺」に始まった詐欺事件、近頃は、還付金詐欺に関する報道が頻繁で、お年寄りがその生涯をかけて蓄えた大切な預金が犯人の手にわたってしまうということがよく聞かれます。これは犯罪であって人に迷惑をかけるどころか刑事事件の対象のものです。が、そこまでいなくても、例えばゴミの投棄、車で移動中に道路脇や駐車場の片隅になど、コンビニ袋につまったゴミが捨てられているのをかなり見ます。中には、カラスやキツネなどが食べられる物をあさったのか、袋の中身が散乱しているのもよく見かけます。ゴミの投棄も条例違反等にあたるのですが、極めて道徳心がない行いだと思っています。きれいな景色の中の道路がゴミだらけにされるわけですから、そこを通る多くの人々が不快な思いをします。大勢の人が嫌な思いをするということなどおかまいなしの行為といえます。もし、車の中に子どもが一緒だったとしたら、大人のよろしくない行為を何とも思わなくなるかもしれません。その子もまた将来、同様のことをするようになるのです。まさに負の伝承といえるでしょう。

いじめの問題についても、いじめる側はいじめられる側の心の状態がどうなろうとかわわないということが多々あります。もしかすると、どういう心境になるかをわかっていて、そこまで苦しめることに喜びを得ているのかもしれません。これは明らかにいじめようとしている場合の話ですが、中には、自分たちの言動が相手をそこまで追い込んでしまっ

いるということにまったく気づいていない場合もあります。このことについては、極めて想像力に乏しいというか、人とのコミュニケーション能力に欠けているというか、結果としてよく聞かれるのが「〇〇さんが、そんなに悩んでいたとは思いませんでした。」という加害者側の弁明です。したがって自分が加害者であるという自覚がないのです。つまり自分のせいで相手が困っている、迷惑しているということを感じ取ることができないでいるのです。このことについては、自己中心的で自分本位な面がそうさせているのか、または、まったく学習することができないのか、とにかく悪いとは思っていないのです。

どうしてこんな鈍感な子が育ってしまうのか、それについて詳しくはわかりませんが、育ってきた環境によるところが大きいのではと考えられます。相手の身になってものを考えとか、どういったことが人にいやな思いをさせるなどを考えることなく、また、そのような具体的場面で誰からも教えられることもなく時間を経てきたのかもしれない。

今、こうした例が多いのです。やはり、家庭での負の伝承ではなく、人として当たり前のことをしっかりと伝承することが大切です。

近頃は、「うちの子は教えなくてもわかるんです。子どもの主体性を尊重していますから」ということを理路整然と述べる親もいるそうですが、この主体性というのがなかなかの曲者で、子どもの独善的な判断基準を尊重しすぎると、いつの日か世間からの非難を浴びせられる子が育つ場合が多いものです。結局、善い悪いをしっかりと学んでいないのですから、極めて危なっかしい自己判断をして、人のいうことなど耳にしないという子が増えてしまいそうです。

年々、「誠実さや人間味に欠ける人が増えてきた」といわれている一因が見え隠れしているような気がします。

少なくとも、「人に迷惑をかけない、人に嫌な思いをさせることは恥」という考え方がしっかりと子どもたちに身につくよう、我々大人はよき伝承に努めていきたいものです。